

地域医療連携室だより

～ 第 13 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

新緑の美しい季節となりましたが、まるで夏を思わせるような陽気の日もあり、1日の寒暖差も大きいため、貴院におかれまして体調管理にご苦労されているとお察し申し上げますとともに、益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

今号では新しく赴任された医師 10 名と看護部長の紹介をさせていただきます。新しいスタッフを迎えて、それぞれの診療科、部署において目標を持って頑張っていきたいと考えております。

当院は「地域密着型の信頼される急性期病院」を目標としており、昨年度は三国地区と当院を循環する患者無料送迎バスの運行を開始し、ハイケアユニットの開設も行いました。今年度は 4 月 1 日から 365 日 24 時間対応の内科系 2 次救急が開始となっておりますので、これまで以上の連携をよろしくお願いいたします。



地域医療連携室長 倉井 修 副院長

地域医療連携室では、今年度の『新たな取り組み』として、下記のことを開始します。

(1) 造影 CT・造影 MRI の直接予約

地域の先生方からの造影 CT、造影 MRI 検査の直接予約が可能となりました。

予約方法等については、ホームページにも掲載しておりますが、地域医療連携室までご連絡いただければ、ご説明させていただきます。

(2) 入退院支援センターの設置

退院支援が必要な予定入院患者さんが安心して入院医療を受けられるように、外来にて入院前支援(入院生活に関するオリエンテーション、内服薬確認、褥瘡・栄養スクリーニング等)を開始しました。昨年までの退院支援と一体化して支援を行っていきます。

(3) がん相談支援センターの設置

緩和ケア認定看護師、化学療法認定看護師を中心としたスタッフが、がん患者さんやそのご家族および地域の方々に、がんに関する医療情報の提供をはじめ、様々な疑問や悩みなどに真摯に対応しています。また、昨年度から開始しているがん患者サロン『サロン・ド・Juso』の窓口としての活動も行います。

地域医療連携室スタッフ一同、皆様方のご意見を伺いながら益々努力していく所存でございますので、ご要望やご質問をお寄せ頂ければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



新任医師紹介

副院長 <外科・消化器外科>

本年4月より十三市民病院副院長として赴任しました、西口幸雄と申します。昭和57年に大阪市立大学を卒業後、大阪市立大学第一外科に入局し、研修医・研究医を経た後、馬場記念病院(堺市)、大阪市立大学医学部教員を経て本年3月まで大阪市立総合医療センターで勤務していました。

専門は大腸癌を中心とした外科治療で、腹腔鏡手術を普及させるべく勉強してきました。大腸癌をはじめとして、炎症性腸疾患や肛門疾患、腸閉塞・腹膜炎などの急性腹症まであらゆる疾患には対応できるつもりです。

栄養療法も専門で、手術後の合併症を減らすべく、研修医時代から一貫して勉強してきました。また食べられない患者さんにはどうしたら栄養不良にならないようにできるか、にも積極的に取り組んできました。地域での栄養不良を撲滅すべく頑張りたいと思っています。

大腸癌だけでなく、急性腹症や栄養不良の患者さんなどどんな疾患にも対応できると自負していますので、ご一報ください。

「ことわらない外科」を方針にしたいと思います。 よろしく願いいたします。



副院長 西口 幸雄

<産婦人科>

この度、4月より大阪市立十三市民病院産婦人科主任部長として赴任しました康 文豪です。

1985年に大阪市立大学を卒業後、2年間の研修を経て1991年に同大学院で医学博士を取得、その後大阪市立住吉市民病院で2年6か月、大阪市立母子センターで2ヵ月、大阪市立総合医療センターで18年4ヵ月、再び大阪市立住吉市民病院で6年間と、これまでも全て大阪市立病院関係で勤務していました。

大阪市立総合医療センターでは生殖医療と内視鏡(腹腔鏡・子宮鏡)手術を中心に、大阪市立住吉市民病院では内視鏡手術と周産期医療を中心に診療を行ってきました。

今後は、サブスペシャリティとしての日本生殖医学会生殖医療専門医および日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医の資格を活かし、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮腺筋症や卵巣嚢腫などに対して内視鏡手術を中心とした摘出手術や妊孕能温例に対する生殖外科手術に携わる事で、地域医療に貢献できればと思いますので宜しく御願い致します。



産婦人科 康 文豪

<麻酔科>

本年4月より、当院麻酔科担当部長に赴任いたしました田中 幸雄 と申します。直接、地域の先生方とお会いする機会は少ないかと存じますが、微力ながら、手術麻酔を通じて、“十三市民病院に紹介してよかった”とだけ思ってくださいよう、努めてまいります。

よろしく、ご指導お願い申し上げます。



麻酔科 田中 幸雄

<消化器内科>

平成30年4月から十三市民病院消化器内科副部長として赴任しました佐野 弘治 (さの こうじ、平成5年高知医科大学卒業)です。

大学卒業後、大阪市大第3内科(消化器内科)入局、大阪市立城北市民病院内科と大阪市立総合医療センター消化器内科で研修医、大阪市大第3内科と大阪市立総合医療センター消化器内科で計4年間研究医、その後スタッフとして保健所兼務大阪市立北市民病院内科で4年間と大阪市立総合医療センター消化器内科で15年間勤務しました。主に下部消化管の診療を行っていました。

地域の先生と連携して消化器内科全般、消化器内視鏡診療をおこないますので、よろしくお願ひします。



消化器内科 佐野 弘治

<呼吸器内科>

平成30年4月に当院呼吸器内科に赴任しました清家則孝と申します。平成6年に和歌山県立医科大学を卒業、大阪市立大学第一内科(呼吸器内科)に入局しました。これまでは地域中核病院、慢性期病院等に勤務して糖尿病をはじめとした生活習慣病から感染症などの呼吸器疾患を診療してきました。最近では今年の3月までの3年間、和泉市立病院に勤務していました。「この患者さんが自分の家族ならどうする？」これは昔、指導していただいた先生からいただいた言葉です。この言葉を心にとめ早く仕事に慣れ、医師同士はもちろん、いろいろな職域の方と連携しながら少しでも患者さんのお役に立てるよう一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。気軽でわかりやすく患者さんの立場に立った医療を心がけてまいります。何卒よろしくお願ひいたします。



呼吸器内科 清家 則孝

<整形外科>

はじめまして、2018年4月から十三市民病院へ赴任しました大西隆と申します。2006年に愛媛大学を卒業し初期研修を修了後、整形一般外傷、脊椎、人工関節、手の外科、スポーツ整形外科の基礎を学び、その後、スポーツ整形外科の専門性を高めるための研修を千葉県船橋整形外科病院で学びました。

船橋整形外科病院では、国際的にもご高名な菅谷啓之先生にご指導いただき、主に肩関節の診療について勉強しました。肩関節の診療は近年発展が目覚ましい分野で、新しい疾患概念や治療法が続々とでてきています。その中で、基本的な診察の仕方、手術の適応や方法、リハビリテーションの重要性など肩関節疾患について幅広く経験することができました。この経験によって得られたものを十三市民病院で患者さんに還元することができればよいと考えており、肩が痛いだけでなく、腕を挙げにくい、背中に手がまわらない、などという症状にお困りの方がいらっしゃれば、ぜひとも僕に診療させてください。

また、院外活動としてセレッソ大阪のチームドクターの一人として働いてもいます。クラブハウスでの診療や試合・キャンプに帯同し、現場で傷害が起きたときの初期対応や選手とチームスタッフ、病院との懸け橋となる役目を果たしています。最後に、僕は見た目は医者っぽくはないのですが、診察は丁寧に、話はよく聞いて、一緒により良い治療ができればと思っていますので、地域の皆様、どうかよろしく願います。



整形外科 大西 隆

<泌尿器科>

平成30年4月より十三市民病院泌尿器科に赴任しました田中尚夫と申します。平成19年に大阪市立大学を卒業し、同年より東大阪市の石切生喜病院にて初期研修をさせていただき、平成21年より大阪市立大学医学部泌尿器科に入局、平成27年3月まで石切生喜病院にて研修を重ね、平成27年4月より大阪市立大学医学部附属病院泌尿器科・後期研究医、平成28年4月より大阪市立総合医療センター・シニアレジデントとして学んで参りました。

現在、泌尿器科専門医及び、泌尿器科腹腔鏡技術認定医を取得し、患者さんにとって低侵襲でありかつ安全な医療を提供できるよう努力していきたいと考えております。

泌尿器科分野におきましては、高齢化に伴い排尿障害や尿路感染症など腫瘍分野以外にも多岐に渡る疾患が増加していくと考えられ、地域の先生方と連携させて頂きながら、より良い医療を提供できるよう精進いたしますので何卒よろしくお願い申し上げます。



泌尿器科 田中 尚夫

<産婦人科>

平成 30 年 4 月より産婦人科副部長として赴任いたしました英 久仁子(はなぶさくにこ)と申します。

大阪市立大学医学部を卒業後、平成 5 年に大阪市立大学医学部産科婦人科学教室に入局し、大学で研修し大学院卒業後、聖バルナバ病院、住友病院、大阪市立住吉市民病院で勤務して参りました。

周産期に関しては NICU のある病院で早産や胎児発育不全、妊娠高血圧症や妊娠糖尿病などの合併症妊婦の管理をしていました。小児科・内科を始め充実した人材と機能を備えた十三市民病院で診療できることが楽しみです。

婦人科は良性腫瘍から悪性腫瘍まで診てきましたが、ここ数年は腹腔鏡下手術や子宮鏡手術、膣式手術等の低侵襲手術に力を入れています。帝王切開術後や子宮内膜症による癒着のある症例でも、適応があればほぼ鏡視下に手術しています。無理せず安全を第一に、患者様のご希望に沿えるよう努めて参りますのでどうぞよろしくお願いたします。



産婦人科 英 久仁子

<外科・消化器外科>

平成 30 年 4 月より十三市民病院外科シニアレジデントとして赴任致しました岡崎由季と申します。和歌山県和歌山市出身です。平成 24 年に大阪市立大学医学部を卒業し、初期研修の 2 年間を和歌山県新宮市の新宮市立医療センターで過ごしました。研修修了後、大阪市立大学医学部腫瘍外科に入局し、1 年間大学病院で専門性の高い症例を経験させて頂きました。その後、中之島の住友病院にて 2 年間勤務し、消化器・肝胆膵・乳腺などの幅広い手術症例を経験してまいりました。

まだまだ未熟で至らない事も多々あるかと存じますが、地域の患者さんの信頼を得るような良質な医療を提供していけるように精進致します。御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



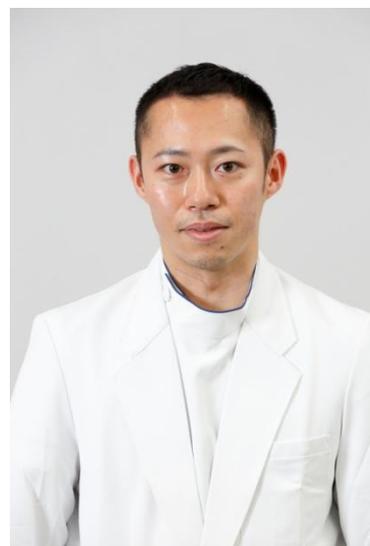
外科 岡崎 由季

<産婦人科>

平成 30 年 4 月より大阪市立十三市民病院産婦人科のレジデントとして赴任しました、安部倫太郎と申します。

平成 27 年に福井大学を卒業後、大阪市立総合医療センターで初期臨床研修を行いました。平成 29 年より大阪市立総合医療センター産科・婦人科のレジデントとして 1 年間勤務し、産科ではハイリスク妊娠・分娩管理、婦人科では腹腔鏡下手術をはじめとした低侵襲手術や悪性疾患の手術・治療・管理等を学びました。総合医療センターで学んだことを十三市民病院での診療に活かしていきたいと考えております。

産婦人科医として 2 年目であり、まだまだ未熟者で至らぬ点もあるかと存じますが、女性の健康をサポートするために地域の先生方と連携を深め、地域の皆様に貢献できるように日々精進いたします。何卒よろしくお願いたします。



産婦人科 安部 倫太郎

<看護部>

初めまして、このたび総合医療センターから十三市民病院の看護部長として異動してまいりました加島美也と申します。

今まで城北市民病院、住吉市民病院、環境保健局(市民病院関係)、北市民病院、総合医療センターと勤務してまいりましたが、十三市民病院は、このたびが初めてとなります。

市民に信頼され地域に貢献するという当院の理念に基づいて、看護部では、人間味あふれる温かな医療が提供できるよう一人ひとりのニーズにあった心の通う看護が提供できる看護職員を育成しています。

十三市民病院の第一印象は「温かな雰囲気のある病院」という印象でした。自分自身も住吉市民病院が一番長かったこともあり、同じような規模の病院に親近感が湧きました。何よりのメリットは「顔の見える関係性」でコミュニケーションの輪を広げることができることです。このような顔の見える関係性を最大限に活かして、職種間でのコミュニケーションの輪を広げ、患者・家族の皆様へ「十三市民病院に来て良かった」と満足していただけるような医療を提供してまいります。また認定看護師や有資格者の専門的知識・技術を活かし、患者相談や看護外来、在宅訪問等を積極的に行い、患者サービスの向上に取り組んでいきたいと考えております。思いやりのある心温かな看護を実践して患者・家族の皆様の期待に応えられるよう努めていきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



看護部長 加島 美也

十三市民病院救急オープンカンファレンス
5月31日(木) 18時30分~19時30分 すかいルーム

『嘔吐を主訴に受診した下垂体卒中の1例』

演者：大阪市立十三市民病院 呼吸器内科 高木医師

コメンテーター：ながしま脳神経外科リハビリクリニック 永島 宗紀先生

コメンテーター：医療法人けあき会 淀川老人保健施設 けあきのもり 松岡 好美先生

編集

大阪市立十三市民病院 〒532-0034
地域医療連携室

大阪市淀川区野中北 2-12-27
代表電話：06-6150-8000
直通電話：06-6150-8067